

第5回 豊岡市観光自主財源検討委員会 議事要旨

日時：2026年4月27日(月) 14:00-16:00

場所：市役所本庁舎3階 庁議室

<出席者>

委員： 高宮 浩之 委員長（豊岡ツーリズム協議会）
山田 雄一 副委員長（立命館大学大学院教授） ※欠席
西村 総一郎 委員（一般社団法人日本旅館協会）
大西 伸弥 委員（城崎温泉旅館協同組合）
今津 一也 委員（日和山観光株式会社）
鷹野 真佐子 委員（温泉民宿久兵衛）
中島 丈裕 委員（神鍋ハイランドホテル）
川原 周子 委員（有限会社そば庄）
羽尻 智子 委員（株式会社シルク温泉やまびこ）
池田 俊介 委員（アドバンス株式会社） ※欠席
小坂 祐司 委員（全但バス株式会社）
馬場 莊一郎 委員（一般社団法人豊岡観光イノベーション）
松宮 未来子 委員（一般社団法人マチノイト）

オブザーバー：島津 太一 氏（芸術文化観光専門職大学准教授
※元一般社団法人豊岡観光イノベーション）

豊岡観光協会
一般社団法人城崎温泉観光協会
一般社団法人たけの観光協会
一般社団法人日高神鍋観光協会
特定非営利活動法人但馬國出石観光協会
一般社団法人但東シルクロード観光協会
兵庫県但馬県民局県民躍動室地域振興課

事務局： 豊岡市産業経済部観光政策課

受託事業者： 公益財団法人日本交通公社

1. 開会

※新任委員および事務局の紹介

2. あいさつ

※高宮委員長から開会にあたっての挨拶

3. 議事

(1) 前回委員会の振り返り

※配付資料1-1に沿って豊岡市から説明

(質疑なし)

(2)「豊岡市観光自主財源導入計画(骨子案)」

※配付資料2に沿ってJTBFならびに豊岡市から説明

高宮委員長

○説明頂いた導入計画骨子案についてご意見を頂きたい。まずは、観光自主財源導入の考え方やこれまでの振り返りの内容となる前半の第4章までで何かあるか。

西村委員

○資料8ページに、「観光振興が市の財政を逼迫する」という表現があるが、税収が増えても国からの交付金が減らされる事を記載しているのだと思うが、それは観光に限らず産業振興全般に該当することであり、この書き方だと観光だけが悪いように誤解を招く恐れがある。観光振興によって経済効果を生んでいる側面も踏まえた書き方にしていきたい。

JTBF

○人口が同じであれば観光客が多い方がゴミ処理等により市の財政負担が大きくなるという主旨であるが、誤解のないように表現を検討・修正したい。

高宮委員長

○観光が豊岡市の税収にかなり貢献していることは間違いがないが、何もしなければ観光財源が減少するため、新たな財源で補填する必要があるという考え方が良いだろう。

○他に4章までの内容で何かあるか。

島津氏

○前回までの委員会で税額をいくらにするかという議論があり、当初から例えば300円への引き上げを織り込んだ上で導入するという意見もあった。そのような意見に対して、最終的にどのように決めるのかを確認したい。

高宮委員長

○具体的な税額についてはこの後議論したい。

○また、本委員会の役割としては決定機関ではなく、あくまでも委員会としての意見をまとめる場である。今後は観光地経営会議準備会で案をつくり、豊岡市が最終的に決定することとなる。

西村委員

○資料12ページの「受益と負担の対応関係が過度に限定される財源ではない」という記述はその通りであるが、一方で、納税者の理解に配慮しつつという趣旨の記述も加えていただきたい。

事務局

○アンケート等で頂いた意見も踏まえ、納税者に配慮した表現を盛り込めるように修正したい。

大西委員

○今年4月から宿泊税を導入する自治体が増えたと思うので、最新の導入状況を資料に挿入しても良いのではないか。

JTBF

○本日提示している説明用資料とは別に本編があり、アンケート結果などの詳細データを資料編に掲載するので、その中で全国事例などの掲載を検討したい。

○なお、全国的には現在45地域が導入済みで、うち20地域は今年の4月1日に導入された。他に10地域が総務大臣同意を得て導入が決定しており、全国的に導入が進んでいる状況である。

高宮委員長

○観光自主財源の制度設計について、5万円未満が200円、5万円以上が400円としているが、将来的に300円に見直すかどうか意見を頂きたい。

今津委員

○導入時から固定とすると、将来的に金額を変えようとしても苦勞するのではという懸念がある。将来的には物価上昇などもあるだろうから、3年後が良いのか、5年後が良いのかは分からないが、導入時から見直しを盛り込んだ制度設計とした方が良いと考える。

高宮委員長

○一度導入した金額を変更するためには、改めて条例を議決し、もう一度総務大臣の同意を得る必要があり手間がかかる。一方で、最初から値上げすることを決めておけば議決や大臣同意は不要となる。そういった面も踏まえながらご意見を頂きたい。

中島委員

○神鍋地域では1泊6000円代あるいは6000円以下で受け入れている施設もあり、仮に宿泊税が300円となるとハードルが高くなるため200円が限界だと感じている。例えば将来的に引き上げるとして決めた場合、その時の状況で宿泊客減少などの可能性がある場合、据え置くということは可能なのか。

JTBF

○長野県の場合は300円で総務大臣の同意を取り、3年間は200円に緩和するという制度設計になっている。一方で、緩和する期間を定めず、例えば「当面の間…」といった表現で同意を得ている事例はまだ無く、その方法で同意を得られるかは分からない。

中島委員

○神鍋地域としては何年後かに必ず300円に上がると決まっていると、厳しいと感じる宿や学校もあるのではないかと思う。ただ、全国的な流れもあり、予めしっかり周知することで納得感が得られるかもしれないし、個人的には税収を上げて観光振興につながる方が良いと思っている。

今津委員

○学校関係は2年先くらいの予約を入れるので、何年後に値上がりすると予め分かっている方が逆に理解が得やすいのではないか。

事務局

○値上げするのかどうか分からないような曖昧な表現だと、国との協議の際に説明を求められる可能性がある。

高宮委員長

○この委員会のまとめとしては、将来的な見直しはもちろん検討するが、いついくらにするというところまでは現時点では明確化しないという書き方でまとめた方が良いか。

○次に6章について協議したい。

大西委員

○以前の資料では全市共通枠と地域・エリア別枠の配分について例が示されていたが、骨子案には出ていない。今後の議論のたたき台になる数字だと思うので、決定ではなくても委員会案として15:85という配分割合を明記した方がよいのではないか。

高宮委員長

○例として書くことは良いと思うが、委員会として15:85の割合でまだ決定してはいないので、どのように記載するかご意見を頂きたい。

西村委員

○細かい割合まで書くかどうかというのはあるが、ある程度は地域・エリアに多めに配分することは明示すべきだと思う。地域内でも用途についての議論をしており、温泉街の交通量を減らす取り組みについて充当するという方向でコンセンサスをとっている状況であり、全く逆の配分で全市枠の方が多くなってしまうと協力できなくなってしまうので、これまでの議論の積み重ねはある程度踏襲してほしい。

島津氏

○15:85という割合を示すなら根拠が必要であり、一人歩きする危険性がある。例えば、15:85、20:80、30:70など複数の割合を列挙して、地域・エリア別枠に比重を大きく置くというニュアンスを示すのが良いのではないか。

高宮委員長

○今までの議論と全く違う割合で按分されるとなると話が違ってしまうので、これまでの議論が引き継がれるよう担保する記述は確かに必要だと思う。この委員会で割合を決めるのは難しいが、いくつかパターンを併記して地域・エリア別枠の比重を高くするという意見を伝えるのが良いだろう。

○最初の議論の際には、納税者が納得する形で使われるように地域で使われるようにという考え方

がベースとしてあったと思う。

高宮委員長

- この委員会に地域の代表として参加しているわけではない委員もおられ、ここで割合を具体的にまとめることはできないと思うので、割合を何パターンか例示するのが良いと思う。
- 例えば、全市枠を15%、20%、25%として、それぞれのパターンでいくらになるかという例を記載することとしましょうか。

今津委員

- 議論の前提は、各地域で課題解決などの財源が必要だから取っていかうという話だったと思う。配分の比率が変わってしまうと、それならば違う財源を検討する方がいいと、そもそもの議論が根底から覆ることになる。今までの会議の意味が無くなってしまうので、地域への配分を極力高めにする事は何らかの形で記載をしておくべきだと思う。

高宮委員長

- 6地域がそれぞれ地域観光戦略を立てており、それを実現するために将来足りなくなるであろう予算を新しい自主財源で賄い、解決していかうというのが大枠の流れである。
- 最初から市全体の計画を推進していかうという話だったら全市枠が多くなるのだと思うが、そうではないので、そのような主旨のことを記載しておくのが良いだろうか。

西村委員

- 日帰り客も考慮した各地域・エリアに配分についてという話もあったが、具体的な配分割合の考え方があれば教えて欲しい。また、前回の委員会で紹介があった福岡県の事例も改めて説明をお願いしたい。

高宮委員長

- 日帰り客を考慮して配分するという話は出ているものの、議論が深められていないので、意見があれば頂きたい。

JTBF

- 福岡県では観光ビッグデータの調査で、県に来ている人の2割が泊まった地域以外にも遊びに行っているという結果から、宿泊と日帰りを8:2の割合で配分し、また各地域の日帰りの訪問人数もビッグデータで把握していると聞いている。

事務局

- 豊岡市では精緻な日帰り客のデータをとれていなかったが、今年度は、2025年1～12月のビッグデータを購入するための予算化をしている。最終的な配分割合がどうなるかは分からないが、日帰り客の数字を示した上で、配分割合の議論ができるようになる見込みである。

高宮委員長

- 日帰り客を考慮するということはコンセンサスがとれているが、具体的にどの様な手法で配分す

るかは本日できるところまで議論したい。福岡県もあくまで一つの事例だが、他に考え方や提案などの意見もあれば頂きたい。

島津氏

○正確に配分しようとするれば日帰り客の観光消費額も調べる必要があるが、地域別の把握は難しいと思うので、福岡県のように人数の割合で配分するのが限界ではないかと思う。

西村委員

○データは人数で良いと思うが、論点は日帰り客を考慮する割合だと思う。ある程度は納税する宿泊客への配慮が必要なので、個人的には多くても8:2くらいが良いのではないかと思う。

高宮委員長

○現実的に把握できるデータは人数くらいではないか。消費額も宿泊客の方が多いだろうから、単純に金額で配分するのも難しいと思う。とは言え、市内での観光客の循環のためにも日帰り客を考慮した制度設計が必要だと思う。

島津氏

○他に指標として使えそうなのは周遊率のようなものが考えられるかも知れない。例えば、ある観光客が城崎に泊って出石でそばを食べて帰っているという行動パターンを把握できれば、宿泊客数だけが全てではなくて、日帰り客も豊岡の観光に貢献している事が明らかになって、そういった地域にも光を当てられると思う。購入予定のビッグデータはそういった移動は分かるものか。

事務局

○移動データの把握は難しい。

高宮委員長

○城崎に泊まった人が出石やマリンワールドに行くという行動だけでなく、逆に、マリンワールドにきた人が神鍋に泊っているなどの行動を知れると良い。他にも竹野で泳いで但東に寄って泊まらずに帰るなど、様々なパターンが考えられるが、それを把握するのは難しいと思う。

○最初の全市共通枠と地域・エリア別枠の配分については、15:85、20:80、25:75の3パターンで想定される金額を書いて、地域観光戦略を実現するために地域・エリア別枠を重視した配分とするという記述で良いか。また、各地域・エリアへの配分については、日帰り客も観光の重要な要素であるので日帰りの人数を考慮して配分割合を決めると言った記述でどうだろうか。

川原委員

○出石はほとんど日帰り客しか来ないので、日帰り客が考慮されないといふことができなくなってしまう。日帰りの比率は2割でも良いので、その旨を記述して欲しい。それが難しいのであれば、全市共通枠が使えるようお願いしたい。

高宮委員長

○日帰りについても重要な要素として考慮する旨を記載し、宿泊客数と日帰り客数の配分割合は暫

定的に8:2くらいと書くか。

大西委員

○暫定的でも良いので割合を書いておき、3年後くらいに見直しと記述しておくことで、この次の会議での議論も進みやすくなると思う。

羽尻委員

○但東は宿泊もあるが、チューリップ祭りや安国寺などもあるので、イベントに来る人数も配慮した仕組みをお願いしたい。

鷹野委員

○竹野は夏には海水浴など日帰り客も来るだけでなく、冬にも食事だけして城崎や出石に行く人もいる。宿泊、日帰りの割合は分からないが、両方を考慮して頂けると有難い。

松宮委員

○豊岡は出張も多く日帰りの割合が高いと思う。最近は宿泊が増えている状況だが、両方を考慮した制度になれば良い。

小坂委員

○全但バスとしては、地域に限らず市内の移動が増えることがありがたい。各地域で上手に配分されて、豊岡市全体が周遊できて良い地域になればと思う。

高宮委員長

○頂いた意見をふまえて導入計画骨子案をまとめて頂ければと思う。

(3) 「(仮称) 豊岡市観光地経営会議」について

※配付資料3に沿ってJTBFならびに豊岡市から説明

西村委員

○会議の人数が多すぎると議論が散漫になる恐れがあるので、知見のある方をうまく組み合わせて頂ければ良いと思う。検証や効果測定をしっかりと頂ければと思う。

○また、国の補助金メニューを活用する際、機動的にこの財源を使えるような予算執行の仕組みを考えて欲しい。

大西委員

○例えばOTAの方を入れると違った観点から全体を見た意見を頂けたり、もしかしたら大きな動きにつながる可能性もあるかも知れない。また、規模別に多様な宿泊施設の方を入れられると良いと思う。ただ、大人数になると決められなくなってしまうので、その点の考慮も必要である。

島津氏

- 各地域・エリアのプロジェクトチームとこの経営会議のメンバーは分けるのかどうか教えて欲しい。ガバナンスを利かせるのであれば分けた方が良いでしょうし、事情が分かる関係者が参加するために一緒でも良いという考え方もあると思う。
- また、船頭が多くなるという面もあるが、一方で、観光地経営には市民との協力も重要であるので、市民の代表が入っても良いのではないかな。

高宮委員長

- プロジェクトチームは各地域で立ち上げ、人選も各地域で行って、地域の事業を進めていくことになる。一方、観光地経営会議は市全体のことについて、評価、検証するので、そこでは自分たちの地域のことだけでなく、他地域や全市の事業のことも取り扱うことになるという理解で良いかな。
- そのため、全員ではないだろうが重複して参加する人も出てくると思うが、各会議の役割が違って仮に重なったとしても1人や2人であるだろうから、ガバナンスが利かなくなることはないと思う。両方に参加することを認めないのは難しいと思う。

馬場委員

- 税収を基金化するとあるが、その基金を運用する可能性はあるか。また、仮に運用する場合、経営会議に金融関係の人が参加して、その人が運用を行うなどの想定はあるか。

JTBF

- 行政の基金であるため投資などで運用することは難しい。

JTBF（オンライン）

- 熊本県の阿蘇では県や市町村が出資した公益財団法人が30億円規模の基金を運用している事例があるが、ある程度の期間と規模が必要になるため、そういった選択肢もあるが数十年単位の話になると思う。

今津委員

- 豊岡市全体として将来、観光を核として地域をどのように支えていくかという視点が必要で、大事な会議である。全国各地で観光に力を入れている中、地域間競争に勝ち残っていくための戦略を考える場になると思うが、そのためには地域の総合力が重要となり、宿泊だけでなく6次産業的な考え方が必要となってくる。その視点を持って進めていく必要があるので、そもそも豊岡市がどうなっていくのかということを考えられる人選をして欲しい。

高宮委員長

- 観光は豊岡市の経済を支えており、1次産業や景観や自然などの分野の人にも参加いただくなど、観光メンバーだけでなく市の全体戦略とリンクできるような視点を持った組織にしていきたい。

(4) その他

(意見なし)

4. 事務連絡
(特になし)

5. 閉会

以上